

【介護ロボット専用の相談窓口が!】

こうした背景を受け、介護現場と開発企業の双方から介護ロボットに関する相談を一元的に受け付ける「介護ロボット相談窓口」を昨年8月、青森県社協に開設しました。

この相談窓口は、厚生労働省が開発・実証・普及までを一気に加速化することを目指して昨年、スタートさせた「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム」構築事業の一環として全国に11か所設置されたものです。

青森県社協は本県と秋田県を担当しており、介護ロボットの導入や活用方法に関する相談を受け付けているほか、常設の体験展示、試用貸出や研修会の開催などを行っています。

体験展示場には移乗、移動、排泄、見守り・コミュニケーション分野の16機器を常設展示しており、令和3年1月末現在、40組145名が来場し、実際の介護ロボットを見て、触れて、体験していただいています。



体験展示は、小・中・高校、大学生にも利用いただいております。普段日常的に触れる機会の少ない「介護」を体験し、福祉の魅力を感じていただく場としても活用されています。

【開発企業も支援します】

プラットフォーム事業では、開発中の介護ロボットの製品評価や検証を行う「リビングラボ」と言われる専門機関も全国6カ所に設置されています。

相談窓口はこのリビングラボへの取次を行うなどして開発企業を支援していくこととなっています。青森県社協では、企業からのご相談はまだ少数ですが、介護ロボットの要素となる技術を有する企業は本県にも多数あります。

今後は、地元企業振興の一翼も担っていきたく考えています。

介護関係者や一般の方、学生・生徒、企業など、どなたのご来場も歓迎しています。体験展示をご希望の方は青森県社協までお問い合わせください。

社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森市中央三丁目20番30号 電話 017-723-1391

利用進む! 介護ロボット相談窓口

本県の高齢化は他県に比べて早い速度で進むと推計されていますが、介護の担い手である介護職員は不足した状態が続いています。

こうした中、高齢者の生活を支える新しい介護ロボットが日々、開発されており施設での介護が変わりつつあります。

最近、注目されている介護ロボットとはどのようなものなのか?どのように使えばよいのか?こうした疑問に答えるべく、青森県社会福祉協議会(青森県社協)に介護ロボット専用の相談窓口がオープンし、広く利用が進んでいます。

【介護ロボットとは?】

ロボットとは、「センサーで情報を感知し」「判断し」「動作する」という3つの技術を備え、知能化した機械システムです。この技術を介護機器に応用し高齢者の自立支援や介護負担軽減に役立つ機器を介護ロボットと呼んでいます。

超高齢社会である日本において、高齢者の暮らしを助け介護の質を高める機器として期待が高まっています。

厚生労働省と経済産業省は、介護ロボットを6分野13項目に分類し、その開発と導入を加速化しています。

▼ロボット技術の介護利用における重点分野(概要)から引用

<p>開発重点分野 ○経済産業省と厚生労働省において、重点的に開発支援する分野を特定(平成25年度から開発支援) ○平成29年10月に重点分野を改訂し、赤字箇所を追加</p>				
<p>移乗支援</p> <p>○装着</p> <p>・ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> <p>○非装着</p> <p>・ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</p>	<p>移動支援</p> <p>○屋外</p> <p>・高齢者等の外出をサポートし、荷物を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○屋内</p> <p>・高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内の姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○装着</p> <p>・高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p>	<p>排泄支援</p> <p>○排泄物処理</p> <p>・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調節可能なトイレ</p> <p>○トイレ誘導</p> <p>・ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器</p> <p>○動作支援</p> <p>・ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器</p>	<p>見守り・コミュニケーション</p> <p>○施設</p> <p>・介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> <p>○在宅</p> <p>・在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> <p>○生活支援</p> <p>・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器</p>	<p>入浴支援</p> <p>・ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器</p> <p>介護業務支援</p> <p>・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器</p>

注目が集まる介護ロボットですが、一方では、介護現場から「種類がわからない」「どのように選んでよいかかわからない」といった戸惑いの声が聞こえます。また、開発する企業には、より介護現場のニーズに合った製品開発を進めていくことが求められています。

